



留学生活動報告

ケセテさん、大学卒業おめでとうございます！



ケセテ・ハブテシオンさんは4年前の2017年10月に、アフリカの角と呼ばれるアフリカ大陸北東部にあるエリトリア国から星槎スポーツ奨学生として来日しました。

留学先の星槎道都大学（北海道北広島市）では経営学部で学びながら陸上競技部に所属し、4年間勉強とスポーツに励みました。2021年9月24日にエリトリア人として初

めて日本の4年生大学を卒業したケセテさんに留学生活についてインタビューしました。

●日本に来てどのような印象を持ちましたか？

「時は金なり」ということわざを、時間を守るというところで、日本人が実際に見せてくれました。

●住んでいた北海道の良いところを教えてください。

冬以外は、留学生アスリートにとって走りやすく、好きなだけ走れるソフトグラウンドがあることです。北海道は広大で交通量も少なく陸上選手にとっては最適な場所でした。

●大学時代の楽しかった思い出は？

日本語の佐藤先生を中心として、星槎道都大学の留学生達が集まり、旅行をしたり、佐藤先生の家で他の留学生と一緒にポットラックパーティをしました。中国料理、ブータン料理、日本料理などを食べたりしたのが超楽しかった！以前は知り合いがあまりいませんでしたが、佐藤先生のおかげで中国人やブータン人の友達ができていろいろな所に行きました。

●陸上選手として来日しましたが、星槎道都大学陸上競技部のトレーニングで、ここが強くなった！というところを聞かせてもらえますか？

来日する前は故障が長く続いたためそんなに結果が出せなかったですが、来日して北海道に移動して以来、怪我もあまり

なく3年間を走り抜いたこと、自己ベストを記録することができたことが個人的には強くなった点だと思います。

●大学で学んで今後役に立つと発見したことを教えてください。

自分自身で会社や自営業を設立しようと思った時、事前に知っておくべき事がいくつかあります。その2つは、会社が利用できる資産を指す経営資源「①ヒト ②モノ ③カネ ④情報」と、事業計画の経営戦略5W2H、WHEN（いつ）、WHERE（どこで）、WHO（誰が）、WHAT（何を）、WHY（なぜ）、HOW（どのように）、HOW MUCH（いくらで）です。コンセプト作りの過程から5W2Hを意識しておく、考えがより整理されるということです。



●留学生活で、自分のここが成長したと感じる点を教えてください。

星槎の3つの約束の中から「人を排除しない」という言葉がすごく感動しました。異国の方々と出会うことができ、色々な人間態度を身につけ、良いか悪いか関係なく、誰とでも共に、どのような環境や条件にも関わらず、一緒に生活を過ごせる、「共に生きる力」が成長したと思います。

●これからケセテさんの後続く留学生達にアドバイスをお願いします。

最も大事なものは、大学に入学する前に、日本語能力の最低N3を実践することです。

【事務局より】世界こども財団としても、ケセテさんをはじめ、星槎のスポーツスカラシップ留学生を応援して頂き、心より感謝しております。ありがとうございます。

次ページにはケセテさんから支援頂いた皆さまへお礼の手紙を書いてもらい、掲載しております。是非ご覧ください！



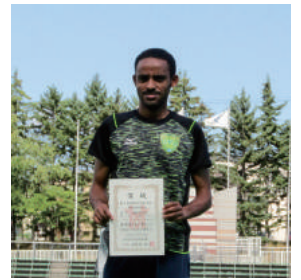
2017.10 来日したばかりの頃



2018.7
工場見学でお菓子作り



2018.8 陸上部の仲間と



2020.8
北海道インカレ 3 位入賞

ご支援をいただいた親愛なる皆様へ

いつもお世話になっております。アフリカのエリトリア*から2017年の10月に来日したケセテと申します。

この度、私ケセテは、北海道の北広島市にある星槎グループの大学、星槎道都大学の経営学部スポーツマネジメント学科を2021年9月24日に卒業することができました。ありがとうございました。

私が卒業できたのは、世界こども財団、そして、星槎グループを支援してくださる方々のおかげだと思っています。本当でしたら、皆様とお会いして直接言葉を交わしたいと思うところですが、コロナ禍であり、難しいため、この場をお借りして、私のことと感謝の気持ちを伝えさせて頂く機会をもらいました。

私が初めて日本に来たのは、2017年10月です。今からもう4年も前になります。日本に来てからは、世界こども財団、星槎道都大学、そして、星槎グループの皆さんから歓迎してもらい、温かいおもてなしとお話をさせて頂いて、この4年間というもの、大変感謝しています。言葉がうまく見つかりません。

ご存知の方も、そうでない方もいると思いますが、私たちエリトリア留学生は、世界こども財団をはじめとする星槎グループとエリトリアが交わした未来に向けての約束をきっかけとして、日本に星槎のスポーツスカルシップによって来ることとなりました。

現在、星槎グループには、私以外に、星槎大学にデジェン、星槎道都大学にナトナエル、星槎国際高校湘南学習センターにダイモンとメルハウイの4名が在籍しています。改めて、ありがとうございます。

留学生が最初に日本に来ると、宮澤会長は、どんなに忙しくても、最初に会ってくれます。そして、言葉以上に、宮澤会長からは情熱、LOVE、思いやり、優しさ、をくださります。それから、世界こども財団の皆さん、星槎グループの皆さんが、私は、陸上選手として今まで経験したことのなかった、特別な奨学生人生の道を迎え、人生を変える機会を開いて頂きました。本当に、本当に心より感謝を申し上げます。

以上のように述べましたように、私はそう言うことで日本に参りました。

日本に来て直ぐ、最初の頃は、日本語が分からなくてとても苦労しましたし、大学生活・部活・慣れない文化・私の無礼などにも加えて超大変で言葉以上に苦労しました。



入学式



卒業式



星槎道都大学陸上部

しかし、月日が経つにつれて、日常生活に慣れてきて、ちょこちょこ日本語が話せるようになってきました。初年度、大磯町で半年ぐらい居て、日本語を中心に勉強をしました。それから、北海道に引越しました。

人生で初めての北海道です。北海道の4月は1〜2月程の寒さではありませんでした、それでも初めて北海道に旅する人には超寒いです。そして、そういう状態になっても陸上部の練習をしないといけないため、本当に泣きそうなぐらいの寒さに耐えながら部活動を行ってきました。

さらに絶対忘れてはならないことは、日本語の授業でした。何故なら、午前9時から午後4時までで、2人の日本語の先生たちから日本語の授業を受けて日本語を教わりました。時間が長く、椅子に座りたくないほど腰が痛くなって大変苦労したからです。当時は、大学生活がつまらなく、長いと感じていました。けれど、今思うと、4年間の大学生活はあつという間でした。

やっと卒業することができました。お会いする人、皆様から、私自身が頑張ったからだよ、と言ってくくださる方も少なくないと思います。ですが、実は、そうではありません。そうではないと思います。

皆さんから支えてもらい、親切さ、笑顔があったからだと思っっています。皆さんが私を支えてくれて、サポートしてくれて、元気にしてくれて、だからこそ、安心して日本で生活ができて、一度もエリトリアへ帰りたいと思わずに、無事にここまで来ることができました。ありがとうございました。

私が最後まで無事に卒業することができた、応援をして頂いた皆さん、世界こども財団の支援者の方々、星槎グループの皆さん、星槎道都大学の皆さん、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

*エリトリアは、「アフリカの角」と呼ばれる北東部にあり、紅海に面しています。紅海は、アフリカ・ヨーロッパ・中東を結ぶ海で、地理的にとても重要な場所にエリトリアはあります。1991年に独立したアフリカ大陸でもっとも若い国の1つです。

ケセテ・ハブテシオン



アフリカ各国での支援活動

コロナ禍でもネットワークを生かして草の根の支援を!

マラウイの病院への支援



FGC ニュース 26 号でお伝えしたマラウイ北部の「エンバングウェニ・ミッション・ホスピタル」への支援について、現地からその後のレポートが届きました。200 名以上のスタッフが働き、年間で外来患者約 3 万人、入院患者約 4 千人を受け入れているこの病院では、さらに新型コロナウイルスの対応にも迫られ、スタッフは食事すら取らずに長時間勤務を強いられていました。そんな過酷な状況で働くスタッフのために、FGC からの寄付を用いて 2021 年 4 月より「ホット・ミール・プロジェクト」が始まりました。このプロジェクトは、夜勤で働く医師、看護師、スタッフ全員に、温かい食事を提供するというものです。小さな支援ではありますが、人々のために懸命に働くスタッフのみなさんからは大変喜ばれ、詳細なレポートと感謝状、そしてみなさんの笑顔の写りが FGC に送られました。



暖かい食事に笑顔の病院スタッフの皆さん



ブルキナファソのこどもたちへの支援



ドイツのアマチュア無線家である Harald Becker さんは、アフリカのブルキナファソを毎年訪れ、現地からアマチュア無線の交信を行うだけでなく、こどもたちの学費の支援などの慈善活動にも長年力を入れています。2021 年 6 月に Harald さんがブルキナファソを訪問した際、FGC も彼の活動に賛同し、寄付を贈りました。この寄付によって、Harald さんからこどもたちへ自転車をプレゼントしました。



自転車のプレゼントに喜ぶこども達と Harald さん（左から 3 番目）

サントメプリンシペの学校への支援



2021 年 10 月、Petr Spacil さんをはじめとするチェコのアマチュア無線家チームが、アフリカのサントメプリンシペを訪問しました。Petr さんたちもアマチュア無線の活動だけでなく、「何か現地の人々の役に立つことを」という希望をもち、FGC と協議の上、日本から寄付を送り、現地の 2 つの小学校に必要な物資を寄贈しました。扇風機やモニターといった学校の備品だけでなく、こどもたちのためのボールなども贈り、こどもたちもとても喜んでくれました。



プレゼントと共に小学校を訪問したチェコのアマチュア無線家チーム



各国文化紹介「ブータン」

ブータン伝統楽器が星槎大学に届きました!!

ブータンの音楽家ジグメ・ドゥクパ氏よりブータン伝統楽器「ヤンキン」「ダムニエン」を送って頂きました。まだ塗装の匂いがする、届きたて、できたての楽器です。

ブータンでは、GNH（国民総幸福）政策の4つの柱のひとつとして伝統文化を重んじ、とりわけ音楽と舞踊は重要な位置を占めています。

この楽器が星槎大学に届いた経緯は、東先生、坂田先生、浅見先生が星槎大学の共同研究「ブータンの開発・教育・音楽と地域社会との関わりに見る共生社会のあり方」をおこなっております。その共同研究の中で、音楽分野担当の坂田先生から「ブータンの楽器ってどのようなものがあるのかしら」というリクエストに応じて、はるばるブータンから送られてきました。



伝統楽器ダムニエン



演奏は、木で作った「撥」を使います（楽器本体と紐で結ばれています）



龍の彫刻がほどこしてあります

今後、ブータンの伝統楽器に触れることにより、ブータンと西洋音楽との融合などの研究を進める予定です。

それでは、この「ヤンキン」と「ダムニエン」は、ハンドメイドでブータンの文化と伝統がつまった素晴らしい楽器でございますので、ご紹介させていただきます。

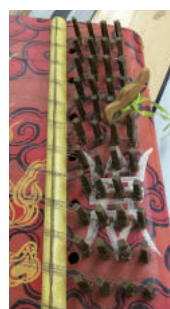
伝統楽器「ダムニエン」は、形は、

日本でいうと三味線に似ています。さすがブータン「龍の国」といわれる所以ですね。迫力のある「龍」の彫刻と彩色がほどこされています。弦は、7本で、ギターでいうピックのような「ばち」が本体と紐で結ばれています。

「ヤンキン」は、箏に似ていますが、竹の「ばち」で弦をたたいて演奏します。弦は、数えたところ52本（4×13）あります。チューニングが大変そうですが、神秘的な音がします。なにより朱



伝統楽器ヤンキン（楽器に描かれている絵が豪華です）



4本の弦からなっています



ヤンキンをチューニングする坂田先生



「コロナの収束を願って…」

星槎大学附属国際交流センターメンバー

星槎大学附属国際交流センターメンバー「コロナの収束を願って…」星槎大学附属国際交流センターメンバー

の地に金色で龍の絵が勢いよく描かれて楽器というよりも美術品といってもいいでしょう。

現在、コロナでブータンと日本の行き来もままならない状況ですが、そんなときこそ、この楽器を架け橋に「音楽のチカラ」で両国の文化を敬愛し、違いを楽しみながら交流を続けていきたいと考えています。（星槎大学横浜事務局 依田真知子）

SEISA Africa Asia Bridge 2021

2021年11月13日(土)開催!

SAABを通じて、アフリカ・アジアを知って世界と繋がる

アフリカ、アジアの国々について「知る」「繋がる」ことから、多様性の素晴らしさ、可能性について学び、体感し、共感する体験型総合学習イベント「SEISA Africa・Asia Bridge」（通称 SAAB）は 2015 年にスタートしました。

今年も公益財団法人世界こども財団、学校法人国際学園、並びに一般社団法人星槎グループは、エリトリアを中心にアフリカ、ブータン、ミャンマーといったアジア、そして、太平洋諸国を知り、お互いを認め合い、相互理解を深め、学び合う共感理解する、国際交流学習イベント「SAAB2021」を開催致します。

2021 年で 7 回目を迎える「SAAB」は、新型コロナウイルスの影響による感染拡大防止の観点から、今年はオンラインでの開催となります。SAAB2021 ではアメリカ・ミャンマー・バングラデシュおよび全国約 40 拠点、さらには日本中の各家庭をオンラインで繋ぐ史上最大の学びの祭典として開催されます。

こどもたちをはじめ、より多くの方々に今後の国際社会の在り方を考える機会、またアジア、アフリカのみならず地域、世代を越えた交流の機会を提供し、相互理解促進を図っていきいたいと考えています。



2021 年 11 月発行

公益財団法人
世界こども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2 (星槎グループ内)
TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp
ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界こども財団」で検索!
印刷: 株式会社 Kurikindi Design 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

